

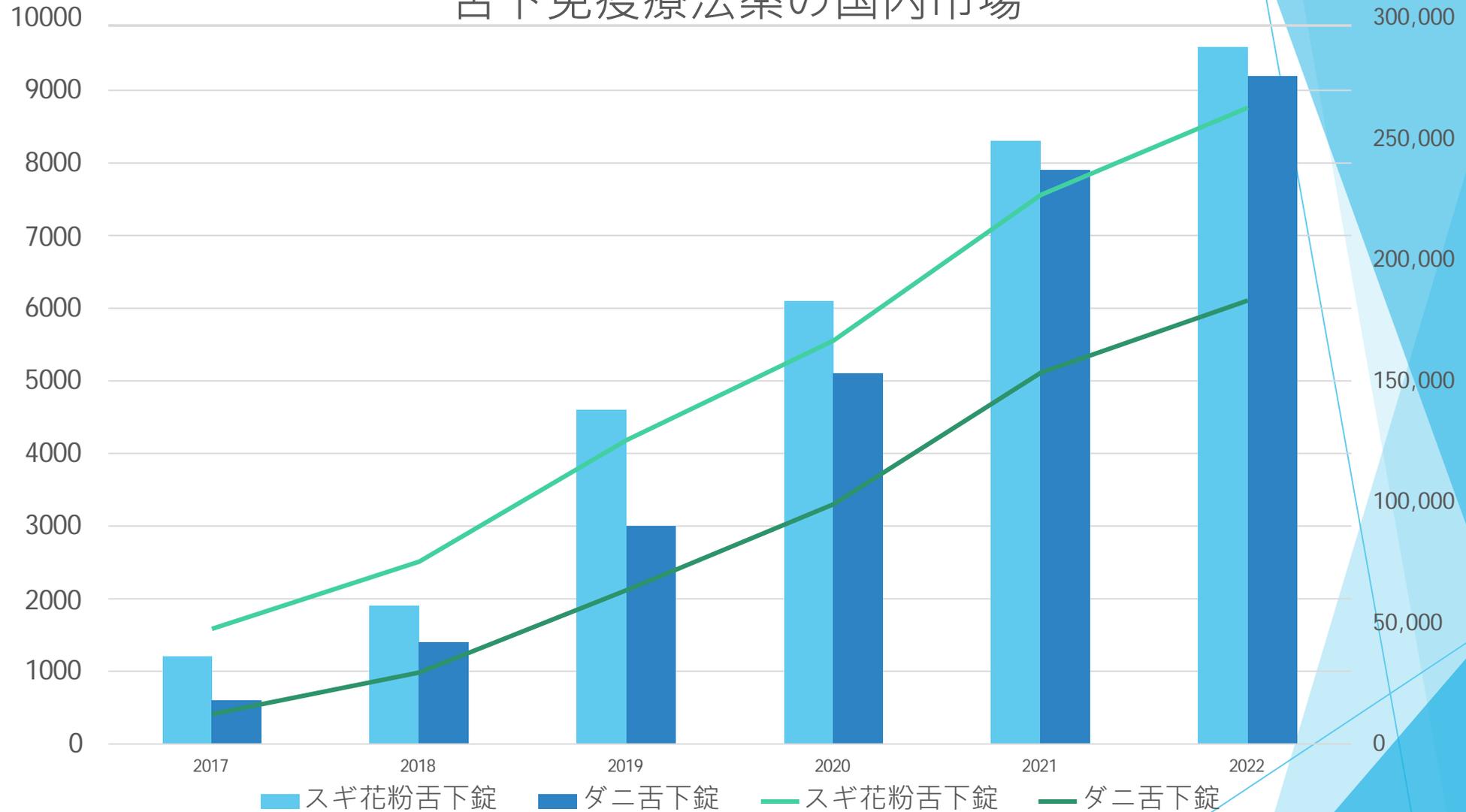
アレルギー免疫療法薬市場

2024/1/22 スギ花粉米の実用化に向けた官民連携検討会

単位：百万円

舌下免疫療法薬の国内市場

単位：人



- ・鳥居薬品株式会社及び塩野義製薬株式会社の有価証券報告書で開示されている舌下免疫療法薬売上金額から作成
 - ・患者数は一人の患者が年間250日服用したと仮定し、薬価を用いて概算として算出
- 鳥居薬品株式会社ホームページ：<https://www.torii.co.jp/>
塩野義製薬株式会社ホームページ：<https://www.shionogi.com/jp/ja/>

花粉症治療における免疫療法薬の位置付け

表 6 重症度に応じた花粉症に対する治療法の選択

重症度	初期療法	軽症	中等症		重症・最重症	
病型			くしゃみ・ 鼻漏型	鼻閉型または鼻閉を 主とする完全型	くしゃみ・ 鼻漏型	鼻閉型または鼻閉を 主とする完全型
治療	①第2世代 抗ヒスタミン薬 ②遊離抑制薬 ③抗LTs薬 ④抗PGD ₂ ・ TXA ₂ 薬 ⑤Th2サイトカ イン阻害薬 ⑥鼻噴霧用 ステロイド薬	①第2世代 抗ヒスタミン薬 ②遊離抑制薬 ③抗LTs薬 ④抗PGD ₂ ・ TXA ₂ 薬 ⑤Th2サイトカ イン阻害薬 ⑥鼻噴霧用 ステロイド薬	第2世代 抗ヒスタミン薬 + 鼻噴霧用 ステロイド薬	抗LTs薬または 抗PGD ₂ ・TXA ₂ 薬 + 鼻噴霧用 ステロイド薬 + 第2世代 抗ヒスタミン薬 もしくは 第2世代 抗ヒスタミン薬・ 血管収縮薬配合剤* + 鼻噴霧用 ステロイド薬	鼻噴霧用 ステロイド薬 + 第2世代 抗ヒスタミン薬	鼻噴霧用 ステロイド薬 + 抗LTs薬または 抗PGD ₂ ・TXA ₂ 薬 + 第2世代 抗ヒスタミン薬 もしくは 鼻噴霧用 ステロイド薬 + 第2世代 抗ヒスタミン薬・ 血管収縮薬配合剤* オプションとして点 鼻用血管収縮薬を2 週間程度、経口ステ ロイド薬を1週間程 度用いる。
		①～⑥のいずれ か1つ。 ①～⑤のいずれ かに加え、⑥を 追加。				抗IgE抗体**
		点眼用抗ヒスタミン薬または遊離抑制薬				点眼用抗ヒスタミン薬、遊離抑制薬 またはステロイド薬
						鼻閉型で鼻腔形態異常を伴う症例では手術
			アレルギー免疫療法			
			抗原除去・回避			

初期療法はあくまでも本格的な花粉飛散時の治療に向けた導入であり、よほど花粉飛散が少ない年以外は重症度に応じたシーズン中の治療に早めに切り替える。
 遊離抑制薬：ケミカルメディエーター遊離抑制薬
 抗LTs薬：抗ロイコトリエン薬
 抗PGD₂・TXA₂薬：抗プロスタグランジンD₂・トロンボキサンA₂薬
 *：本剤の使用は鼻閉症状が強い期間のみの最小限の期間にとどめ、鼻閉症状の緩解がみられた場合には、速やかに抗ヒスタミン薬単独療法などへの切り替えを考慮する。
 **：最速使用推進ガイドラインに則り使用する。

〔「鼻アレルギー診療ガイドライン2020年版（改訂第9版）」より引用〕

世界のアレルギー免疫療法薬市場動向

- ▶ 世界のアレルギー免疫療法市場¹⁾
 - ▶ 2023年：17億4,000万米ドル
 - ▶ 2023年から2033年にかけて8.9%/年で成長
 - ▶ 2033年までに40億7,000万米ドルを超える
- ▶ ヨーロッパのアレルギー免疫療法市場²⁾
 - ▶ 2019年：5億4,414万米ドル
 - ▶ 2020年から2027年にかけて10.8%/年で成長
 - ▶ アレルギー性疾患の有病率の増加、舌下剤形による促進
 - ▶ 2027年までに12億2,814万米ドル
- ▶ ヨーロッパと日本のアレルギー免疫療法市場³⁾
 - ▶ 2022年：12億2,837万米ドル
 - ▶ 2022年から2030年にかけて8.1%/年で成長
 - ▶ 2030に22億9,356万米ドル

引用元 1) <https://www.futuremarketinsights.com/reports/allergy-immunotherapy-market>
2) <https://www.theinsightpartners.com/pr/europe-allergy-immunotherapies-market>
3) <https://www.coherentmarketinsights.com/market-insight/europe-and-japan-allergy-immunotherapy-market-5037>